

第6回 都市計画マスタープラン見直し検討会議 議事録

日 時：平成27年8月27日(木)15:00～

場 所：消防局庁舎4階災害対策本部室

参加委員：16名 傍聴者1名

事務局：都市計画課、株式会社 集計画研究所

1. 開会

2. 第5回検討会議における意見等に対する考え方について

3. 議事（都市計画マスタープランの改定について・都市計画マスタープラン改定素案について）

●事務局からの説明後、議事

委員長 今回は主に第5章の推進方策について、皆さんから質問や意見をうかがいたい。

委員 145頁の推進方策の組み立てについて、「1.(2)まちづくり諸制度の柔軟な活用」は「2.魅力創造の取り組み」にも関わるので、「3.」として項目を分けた方がしっくりくると思う。「3.都市計画マスタープランの適切な見直し」を4とすることになる。

委員長 「(2)まちづくり諸制度の柔軟な活用」が「1.拠点ネットワーク型都市づくりの推進」の中に置かれている理由を説明していただきたい。

事務局 拠点ネットワーク型都市づくりの推進を継承する中で、「まちづくり諸制度の柔軟な活用」は従来からこの枠組みに入っていた。見直しを進めていくと、この記述が多岐にわたる形になってきた。まちづくり諸制度等の活用イメージでは、例えば、市街化調整区域や郊外市街地に対する考え方を示している。ご指摘の通り、ここまで幅を広げたということになれば、1つの項目として独立させるのがスマートではないかと思う。検討させていただきたいと考えている。

委員長 現段階では、今の意見を踏まえての見直し、検討止まりだと思う。まだ、後半の魅力創造の取り組みについて、どのように諸制度が関わるかの議論がないと捉え方が分からないと思う。

委員 「3.都市計画マスタープランの適切な見直し」について、現状が把握しづらいので、もう少し詳しく記述できないだろうか。前回から改定にかけての成果が知りたい。今後の適切な見直しには、中間で検証を積み上げて、マスタープラン自体をブラッシュアップしていく仕組みが必要だと思う。この基本計画からいろいろと発展していった成果が分かると、市民に横須賀の動きが分かりやすくなると思う。

- 事務局 平成8年の都市マスは、まだ人口が増えて市が大きくなるという前提の中でつくった。その後、人口減少がはっきりしてきた状況を見ながら、5年前に都市マスの見直しを行い「拠点ネットワーク型都市づくり」を初めて設定し、踏襲している。今後、更に人口が減っていく状況で、現在の人口40万人から平成47年には34万人という設定をしている。縮小していく都市において、都市の規模が小さくなるから市全体の機能も萎んでいくのではまずいと考えている。小さな都市になっても、快適さや活力が都市にないと、住んでいる人たちや訪れる人たちも萎んでしまう。また、人口が減ると都市間競争が激しくなり、横須賀の中で何かを持たなければ都市間競争に勝っていけないだろう。
- 「豊かな暮らしをしていく」、「いきいきした交流をはぐくむ」という都市づくりの目標に対して、今回はコンパクトだけれども活力のあるネットワーク型の都市と、都市の魅力をつくっていく。そうした大きな考え方の中で、今回の都市マス改定を行っている。
- 見直しの考え方は、ハードの部分についてはある程度把握できるが、まちの勢いやコミュニティなどは評価しづらいという問題がある。全てを成果ということで捉えることは難しいが、整理しながら書き方の工夫をしていく。
- 委員長 検証ということについて、工夫の余地は具体的にありそうだろうか。次の計画が平成47年という20年後を目指すわりには、記述が少ないので、この先どうなるかという気持ちになる。
- 事務局 途中の時点修正では変更点の記載する工夫もできるだろうが、今の段階では詳しい資料の添付は考えていない。横須賀市の基本計画の目標年次である2021年（平成33年）は、平成47年の中間の時期にあたり、都市計画マスタープランを見直す良いタイミングになると考えている。
- 委員 見直しの要因にある「市民ニーズの変化」はいろいろな意見があり、つかみづらい。昨今、都市計画を基に行政が進めることと住民ニーズが反発しているながら、計画通りに進めたのだから良いとする事例が見られる。「市民ニーズの変化」を判断し、計画自体を見直すタイミングはナーバスな問題だと思う。柔軟性を持って計画自体をブラッシュアップしていけると良いと思う。
- 委員 今後の見直しも大事だけれど、このマスタープランをどうしていくかという記載がもっと必要だと感じる。これをベースにタイミング見て活用し、いろいろと波及させていくと思うが、具体的な内容が分かりづらい。
- 委員長 マスタープランの「活用」ということがイメージしにくいということだが、何か補足して説明できるだろうか。
- 事務局 活用の方策をきちんと記していくことは重要だと考えている。第5章 推進方策と

いう項目は、この計画に実行性を持たせるために重要であるが、行政では現行の都市計画手法に考え方が偏ってしまう面がある。都市マスの活用については、都市魅力においても記載したつもりであり、推進方策でも地域を交えた取り組みに展開していけるよう、可能な限り記述していきたいと考えている。

委員長 皆さんからも、どう活用できるかというアイデアを出していただければと思う。

委員 こうして時間をかけて「少しでも良いものを」とつくっていても、知らない方が多いと思う。市民のいろいろな集まりや地域の広報誌にピックアップした内容を機会あるごとに載せるなど、なるべく多くの方の目に触れさせることが大事だと思う。

委員長 別の会議で、低炭素まちづくり計画のパブコメ結果について議論したが、意見を出した方が2人だけで寂しい思いをした。利害が関係ないと見向きもされず、広報がうまくいっていないと見てくれないといった指摘だと思う。今後のプロセスの中で、できそうなことがあるだろうか。

事務局 市民への周知や市民の理解を深めることは重要だと考えている。今回、都市計画マスタープランの見直しに関して11月にシンポジウムを開催する。今後も多くの市民の方々に、この都市計画マスタープランを浸透させていく取組みを考えていきたいと思う。

委員長 この点についても皆さんから、具体的なアイデアをたくさん出していただけると良い。

委員 市民に周知することは大事だと思う。私もここでメンバーになり、初めてこのプランニングがあることを知った。
今後20年の中の3年や5年のスパンで、PDCAを回すという意味でも、プランの評価をしていく必要があると思う。

事務局 プランの検証は必要だと考えているが、PDCAのサイクルに都市計画マスタープランが適合するかというと難しい面もある。ただ、3年ないし5年のスパンの中で、今の計画の進捗を事務局の事務として見ていく必要はあると考えている。

委員長 プランニングの場面で、いくつか目指すべきものを指標化して経年的に見ていく。例えば、市民の満足度や定住の意向、あるいはコンパクトを目指すのであればコンパクト度のような指標を土地利用の計算によってチェックするといったやり方があると思う。
計画そのものにすぐに指標を盛り込むことはできないが、放っておくと何が目標で、何が達成できたかが分からなくなる。PDCAサイクルも重要だが、あらかじめ指標をいくつか設定し、並行してモニタリングしていくことも1つの方法だと思う。

委員 147 頁の「本市が目指す拠点ネットワーク型都市構造のイメージ」は、36 頁の「将来都市構造図」と整合をとりつつ、どう実現していくかが描かれているところだと認識している。147 頁の図に凡例がないが、それぞれの色塗りと矢印の意味を教えてください。

事務局 赤のゾーンは拠点市街地であり、その周りのオレンジを周辺市街地としている。黄色は郊外市街地であり、拠点ネットワーク型の 3 種類の市街地を設定している。今後の立地適正化計画を見据えたときに、都市機能誘導区域、居住誘導区域、それ以外というイメージが湧くようなつもりで、この絵をつくっている。グリーン部分は将来の縮退に備えるゾーンということで、人口が減って郊外に空き家が増えている状況で、ある程度の縮退が見られることを想定している。また、そのようなエリアに残って住んでいる方たちには、居住誘導区域である周辺市街地へ移っていただきたいという考えで矢印をつけている。

委員 緑の矢印は、縮退に備えるゾーンに住んでいる人たちが強制的に拠点の方に移されるのではないかという誤解を生む可能性がある。人の動きは多様であって、コンパクトなまちにしていく中でも、拠点から郊外市街地に移るライフスタイルもあり、1 つのパターンで矢印を入れるより、できればこの矢印は無い方が良いと思う。また、36 頁の将来都市構造図は市街地のタイプ別に姿を描いたもので、147 頁の図はそれにプラスして密度が描かれている。別の観点で色塗りがされているが、36 頁の図にも拠点市街地と周辺市街地という分け方を入れるべきではないかと思う。155 頁の「適切な見直し」にも関わるが、147 頁のように都市構造が変わっていくことを評価する指標が必要であり、拠点市街地、周辺市街地、郊外市街地それぞれの人口や住宅戸数が経年変化で分かるようにできないだろうか。また、商業、業務、医療、福祉等の機能が拠点市街地に集まってきている状況が分かる数量的な指標があると、数年後にこの計画がうまくいっているかどうかの評価ができると思う。

事務局 147 頁のイメージ図の矢印は外す方向で考える。それぞれの市街地の人口、世帯数の把握は、現段階では難しい。立地適正化計画が立ち上がった段階でエリアが出るので、町丁目単位の数値で把握していけると思う。現在を基準値として、どう変化するかを見ていけるようにしたいと思う。36 頁の図は、土地利用の 12 類型で将来構造を考えている。その類型を拠点ネットワーク型の 3 つの分類にどう組み込んでいくのかを検討させていただく。

委員 147 頁では分かりやすく都市構造を描いているので、36 頁に反映できるように検討していただければと思う。

委員長 拠点ネットワーク型都市づくりについては、23 頁で分かりやすく説明され、抱えている課題や限界も示唆するように書かれている。それに対して 147 頁で、さらに推進していくという見せ方もあり得ると思う。

推進方策には、いろいろな活動があって良いと思う反面、何か横須賀らしいものとして、地域まちづくり推進条例や、推進のためのファンドをつくり、そこにグループで登録して皆で連携して目に見えやすくする方法もあると思う。

委員 それぞれの時代で日本の発展に関わっている横須賀の歴史を、まちづくりのイメージに活かしたい。そのために横須賀の歴史研究の発表の場をつくっていただきたい。三浦一族や製鉄所、戦艦三笠の保存会、進駐軍のデニー・デッカーさんの研究会もあり、コミュニティセンターなどで発表しているが、興味がある方が機会を捕らえて聞きに行く程度である。せっかく発信しようとしているので、多くの人目に触れるダイエーやモアーズ、市役所1階の展示スペース等で発表や展示ができるようになると思う。そこから市民に横須賀の歴史への興味が広がり、皆さんの横須賀のまちづくりのイメージにもつながっていくと思う。

委員長 それは151頁の「自らの特性やノウハウを活かし、相互理解と協働により活動できるまちづくりの仕組みづくり」として、情報交換しやすい場面をつくることだと思う。151頁にいくつか項目を追加して出しておくことは可能かもしれない。

委員 151頁の「多様な参加主体によるまちづくり」は画期的なことだと思っている。インフラ関係に頼りがちな都市計画の中で、皆でまちづくりをするといことはすばらしい。特にこれからの時代は、行政主導よりも市民と協働でということになる。そこで151頁に「～相互理解と協働により活動できるまちづくりの仕組みづくりを検討していきます」とあるが、「検討」を「推進、検討」とし、力強く進めていくようにしていただきたい。

事務局 横須賀ならではの特色を出して、住んでみたい、訪れてみたいと思ってもらうためにも、横須賀の歴史は大きな資源、資産であると思う。それを随所に散りばめたつもりであり、重要な視点だと思っている。

委員 中央と比べると長井、武山、大楠ではコミュニティセンターなどの公共施設はできているが、相対的に遅れていると感じる。横須賀全体を同じようにはできないので、それぞれの地区の特性を活かすことになるが、都市マスの中では難しいという気もする。今まで遅れてきた地区も含めて、全体的に網羅して考えていただきたいと思う。

委員長 拠点ネットワーク型のイメージが、中央に吸い上げるように見えるという指摘があった。魅力創造の取り組みに、例えば漁港がたくさんあり輝いているということを加えるなど、中央に固めてしまうだけでなく、それぞれの地区が磨きをかけて輝くように見せることも考えられる。拠点ネットワーク型と全体の両方がそろって横須賀の良さが見える模式図がないと、実際にはそうではないが、表現していないのではないかという危惧を持たれる。

事務局 全体を見て都市マスをつくっていくことは大切だと思っている。全体については36頁に将来都市構造図があり、47頁の土地利用誘導方針図では中心市街地や産業、海の交流ゾーン、谷戸、古い開発の住宅団地についても重点的に考えて記載している。また、西の地域については鉄道が無く、公共交通であるバスの夏の渋滞など、いろいろな問題を抱えている地区であると認識している。裏返してみると、東側にはないイメージや暮らし方が西の地域にはあると考えている。不便なことを一気に解消できるとは思っていないが、今ある良さを活かしながら、特徴を広げていく書き方をしている。この先、他の計画の中でも検討していきたいと思う。

委員 横須賀市内どこへ行っても横須賀だと実感できるものがあると一番良いと思う。例えば、横浜はどこでも横浜を感じさせるものが多いが、横須賀は少し外れると横須賀という感じが薄れる。今後の都市づくりはそれをどうするかだと思う。

委員長 希望としては、推進方策の中で、拠点に周辺を吸い付けるイメージではない目指すことが分かる絵があると良いので、検討していただきたい。
また、地区別に入るところで、地区別の取り組みへの方針が書いてあるのか、地区による違いや方針が意図通りにバランスよく書かれているのかを改めてチェックしていただきたい。

委員 推進方策では「拠点ネットワーク型都市づくりの推進」がテーマとして一番大きいと感じる。「(2)まちづくり諸制度等の柔軟な活用」が格上げされた項目になると、拠点ネットワークについての例示がもう少しあった方が良いのかと思う。効果的な公共施設整備のイメージには、道路整備と港湾整備が例としてある。コミュニティセンター等の交流拠点の機能拡充といった効果的な公共施設の利用促進が入ると、拠点ネットワークのイメージも少しは広がるのではないかという印象を持った。

委員 地区別の方針の内容が詳しくなっているが、それに沿った形で地域運営協議会が、地区別のプランを地域運営協議会の方針と捉えて進んでもらえるだろうか。例えば、追浜の「住まいと職場の魅力を高めるまちづくり」という方針から逸れて観光面を盛り上げていこうという話になっても、プランとの違いが明確に分かれないと、地区の魅力づくりの中で整合がとれなくなる。いろいろなまちづくり団体や企業、市民が地域運営協議会に参加して、その地域のまちをつくっていく。そうした集まりとマスタープランの連携の構造が必要だと思う。

事務局 地域運営協議会への働きかけは重要だと思っている。都市計画マスタープランで最初に市民の方々の意見を吸い上げる場として意見交換会を開いた。その際にも地域運営協議会にうかがい、都市計画マスタープランの説明をさせていただき協力をお願いし、多くの方に参加していただいた。これからの連携も重要だと考えているので、機を捉えて、エリアマネジメントの考え方もあるが、併せていろいろと確認していきたいと思う。

- 委員長 このプランの第5章の書きぶりをこれから再編するときに、地区ごとのまちづくりと全体をどう関係づけるか、はっきりとは書けない場合もあるが、分かりやすく記述していただければと思う。
- 委員 長井でも活発に地域運営協議会は活動している。市全体のことで、「まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」や「関東地方審議会」など横須賀市独自で個々の団体に来ていただき話をしている会がある。それらの会議で同じような内容がいくつか出てくるので、横須賀市のいろいろな計画の推進状況について、市の中で、各部長が話し合っていないのだと思う。総括して横須賀市の今の会議の状況をお互いに市の中で知るべきであり、この会議でもかいつまんでその状況を教えていただきたい。
- 津波の対策については、横須賀市の多くが海に囲まれているが、港の付近だけに津波用の防波堤をつくる話になっているようだ。他のところはどうなるのか、その辺りのことがわからない。総合的にどう推進していくのか、各部長が把握し、参考程度に発表していただけるとありがたい。
- 委員長 全ての説明を始めると時間がなくなってしまうので、都市計画マスタープランに関わりが強いところを踏まえることになると思う。
- 委員 「まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」に出席しているが、そこでも都市マスと重なる切り口がたくさんある。ベクトルの方向が違わないよう、部長どうして調整しながらつくり上げ、必要に応じて報告したいと思う。
- 委員長 横須賀の中央と西側の違いという話があったが、マスタープランとして横須賀の一体的な個性からビジョンを打出すことも考えられないだろうか。また、周辺の都市とのつながりや違い、その中での横須賀市の位置づけが分かるような広域ネットワーク図があっても良いのではないか。
- 事務局 都市計画マスタープランは横須賀都市計画区域を基に組み上げていることもあり、広域にあまり触れていない。都市計画の考え方の中で、「都市計画区域マスタープラン」という別の計画がある。正式名称は「整備、開発及び保全の方針」であり、これは神奈川県が横須賀市の都市計画区域を考える視点となるもので、隣接する広域圏をメインに記載されている。都市計画マスタープランでは横須賀市域と横須賀都市計画区域の中について役割を担うことが重要なファクターだと考えている。
- 委員 152、153 頁の取り組みのイメージに「谷戸の魅力を活かしたまちづくり」と「漁業・農業・リゾート環境を活かしたまちづくり」とある。学生の支援活動やシェアハウスの取り組み、民泊での活動の写真が載せてあり、学生による活動が多いという印象を受けた。若い人にこのマスタープランを知っていただくために、外へ向けて学生に情報をアピールしてもらおう機会をもっと設けて、推進してほしいと思う。

事務局 地域に根付いた活動をして欲しいし、つくって欲しいというのが今回の考え方で、その中の例として谷戸の話を書いている。学生へのアピールは良いことだと思うし、学生の意見も聞きながらつくっていくことは必要だと思う。村山先生の大学の学生さんも横須賀を題材にまちづくりの計画を勉強していただいている。そうした場で都市マスや地域のことを説明させてもらっている。また、横浜国大や関東学院大等でも同じような形で活動をしているので、大学との取り組みを通して、意見をなるべく取り入れていきたいと考えている。

委員長 先ほど歴史が重要だという指摘があったが、自然や歴史、文化財となると多くの大学が関わっていて、その宝庫になっているので、大学でもまちづくりの推進と同じ方向でやっていけるようにしていきたいと思う。

委員 公立の小中学生にも都市マスに関わる活動があるのかうかがいたい。横須賀の歴史や自然の魅力や抱える問題について、子どもたちにも考えてほしいし、それが未来につながっていくと感じる。そうした活動や授業ができるように都市マスを活用してほしい。

事務局 次の世代のまちづくりを担う意味で、若い方々への啓発を重視している。大楠小学校から都市計画マスタープランの見直しを授業に組み込み、進めてみたいという依頼があった。そこで都市計画マスタープランは、まちの将来をつくる計画だという説明をさせてもらい、継続的に授業を行っていただいた。最終的には大楠地区の将来についての発表まで進めてもらった。授業を聞かせていただくと、こちらが気づかされる内容もあった。こうした取り組みは重要であり、機会を捉えて積極的に話していきたいと思っている。

また、都市マスではないが、久里浜駅周辺地区で地域のまちづくりを行ったことがあり、PTAの方や学校の先生にも参加いただいた。アンケートをとろうといった話になったときに、中学校や総合高校に出向き、まちづくりの内容を話してアンケートをとり、いろいろな意見をもらった。そうした取り組みも行っている。

委員長 151 頁の「多様な参加主体によるまちづくり」に、今の話にあったPTAなどは漏れている。具体的なイメージとして「次の世代のまちづくり意識を高める小学校の～」といったことも書ける感じがしたので検討していただきたい。

委員 53 頁の幹線道路の整備方針図は、もう少し横須賀市の周辺市町まで拡げて、道路のつながりを見たい。この図では国道 134 号や国道 357 号がどこへつながっているのか分からない。横横道路の釜利谷ジャンクションに接続する圏央道の横浜環状南線という建設中の道路がある。山梨や長野からも圏央道、横横を使ってお客さんを呼んで三浦半島に入ってもらえるというイメージも見えてくるので、図の範囲を広げてもらえればと思う。

また、拠点ネットワーク型ということで5年前の都市マスから取り組んでいるが、

その時点から5年程でどのくらい進んだのか、検証されているならば教えていただきたい。

事務局 全体的な話には至らないが中心市街地で見ると、5年前に拠点ネットワークという考え方を示し、再開発が進み大きなタワーが2つ建った。それに続く4つのエリアについても考えている。元々、中心市街地整備計画というものがあり中央の公共整備は進んだが、民間の建物は老朽化したままであった。それを地域の皆さんが考えを出しながら更新して進めている。良い例として、大滝町2丁目のビルが建ったので、それを機運に良い循環が出来つつあり、これからの拠点ネットワークにもつながっていくと思っている。

幹線道路の図については、将来的な圏央道へのつながりや、三浦半島自体が便利になっていくことが見えるような図を考えてみたいと思う。

委員長 横須賀は三浦半島の先の方というイメージがあるので、図として半島の真ん中にある感じで描ければ良いと思う。今後、横須賀が周りのまちとどうつながり合っていくかが分かるとイメージが湧きやすいと思う。

委員 第5章の魅力創造の取り組みの中に「横須賀中央エリア再生促進アクションプラン」とあり、既に大滝町は再生しつつあるが、次のアクションプランについて具体的なものがあれば説明していただきたい。中央エリアの再生は、横須賀のまちづくりに必要な交流人口の促進につながる。横須賀市全体に課題は多く、解決していかなければならないが、外から見た横須賀の魅力を中心エリアで見せていきたい。

事務局 「横須賀中央エリア再生促進アクションプラン」は平成24年に策定した計画であり、中央エリアの容積率の緩和や高度地区の廃止といった規制緩和を進め、事業を推進している。目標年次は平成33年であり、特別減税や様々な助成措置がこれから進められる。今の段階では次のプランというより、現アクションプランの真っただ中にあるのが現状だと思う。

委員長 今後の都市マスの進め方について説明していただきたい。

事務局 これからはこの改定素案をブラッシュアップして、11月にパブリックコメントを開催し、市民の方々からも様々な意見をいただきたいと思っている。取りまとめを年明けの1月に行い、年度中の3月いっぱいでの都市計画マスタープランをつくり上げるスケジュールを考えている。

委員長 素案として出していくことを前提に、今の時点で全体的に気付いたことがあれば発言していただきたい。

今回、魅力創造の方針を全面的に打ち出して、地区別に新たに書き込んだものを皆さんに一通り見ていただいた。発言はないので、今日の議論はこれで締めさせていただきます。ありがとうございました。

4. その他

- 事務局より、横須賀市マスタープラン検討会議意見等提出シートについての説明と依頼及び次回スケジュールについての説明を行った。

5. 閉会